



こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

♥ホームページ URL <http://www.oikawahp.net> ♥Eメール address info@oikawahp.net

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

及川病院

〒810-0014

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411

No. 38 2016年11月発行

患者様の権利と義務

患者様には「ご自身が生命の主人公」として、医療従事者とのよりよい人間関係を築いていきますよう以下の「守られていること」「守っていただきたいこと」があります。

人格権

患者様は個人としての人格、価値観などを尊重されます。

受療権

いつでも必要かつ十分な医療サービスを受けるために、医療機関を選択する権利があります。

知る権利

病名、病状、診療計画、検査・手術、薬、必要な費用などについて、納得できるまで説明を受ける権利があります。

同時に、私たちに既往歴、現病歴、現在の治療内容、アレルギー歴など健康に関する情報を正確にお伝えください。

自己決定権

十分な説明を受け、理解した上で、提案された診療計画などを自らの意志で決める権利があります。

同時に、それらの内容に関する指示を守る義務があります。

納得できない場合は、他の医師や医療機関の意見を求めることができます。

プライバシーに関する権利

個人の秘密や医療に関する個人情報を守られ、私的なことにみだりに干渉されない権利があります。

参加する権利

診療内容や病院の運営につき苦情や意見を述べ、医療改善の活動に参加する権利があります。安全性を高めるためお名前確認などにご協力ください。

ピンクリボン月間だった10月、暖かい月でした。毎年楽しみにしている北野や朝倉のコスモスも遅咲きだったようです。月間イベントとして恒例の街頭活動の他、今年は『ジャパン・マンモグラフィ・サンデー』（日曜日に乳がん検診を受ける啓蒙イベント）当日に、院内で乳がんクイズや乳がん模型体験などを行いました。スタッフの発案によるもので、来場者には栄養科からの紅茶サービスもありました。生憎朝からの雨でみえた方は少なかったようですが、こういった手作りイベントは私たちにとっても大切なことです。スタッフの行動を後押ししていきたいと思えます。毎年この10月が特にピンクリボン月間として取り上げられますが、過ぎてしまっただけで関心がなくなってしまう意味がありません。私たちは専門職としていつでも検診の大切さ、早期発見の重要性を説き続けなければなりません。常に色々な情報を発信し続けてまいりたいと思えます。さて、当院乳腺外科副部長 及川将弘が1年間留学することになりました。その間ご不自由をお掛けするかもしれませんが、世界有数の乳がん研究機関にて得たものを来年以降必ず皆様に還元してまいります。当院が乳がん専門病院として一層お役にたてるようスタッフ一同力を合わせてまいります。

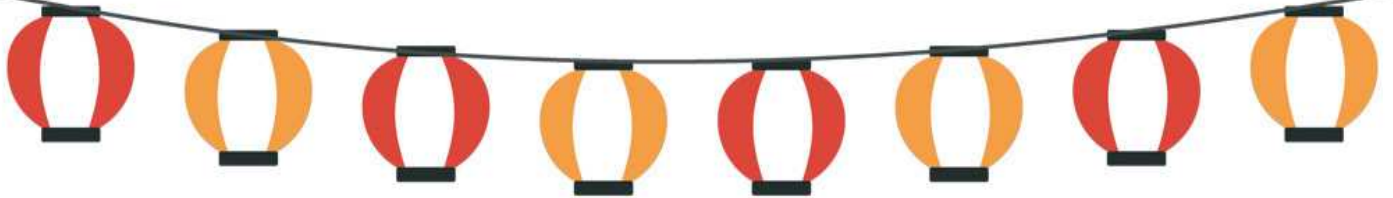


ホームページリニューアル 近日公開予定！

長年愛用してきました当院ホームページを現在、大幅リニューアル中です。多くの方がご覧頂けるよう簡単で分かりやすく、また及川病院らしさが伝わるようなホームページにいたします。現在、7割程度の完成となっておりますが、完成次第公開致しますので、楽しみにお待ちください。

現在のホームページ⇒





平成28年 及川病院 夏祭り

毎年恒例の夏祭りが今年も盛大に行われました。

昼の部は稲光先生による乾杯の音頭、患者様とご家族、スタッフでの盆踊りからスタート。談話室には夏祭りの飾りをたくさん準備し、広島出身の院長による元祖広島風お好み焼きコーナーの他、たこやき、かき氷、流しソーメン、ヨーヨーすくいなど本格的な夏祭りを演出。患者様とご家族、スタッフみんなで楽しみました。

夜の部は心配していた雨も上がり、ドリンクを片手にピアノの生演奏を聴き入り、最後はみんなで花火を楽しみました。

たくさんの笑顔があふれる素敵な夏の1日となりました。



ホスピス緩和ケア週間 及川病院コンサート

毎年10月の「世界ホスピス緩和ケアデー」を最終日とした1週間は「ホスピス緩和ケア週間」です。全国でポスター展示やセミナー、コンサートなどが開催され緩和ケアの普及・啓発活動に取り組んでいます。

当院緩和ケア病棟でも毎年ピアノとリコーダーの演奏が行われます。

今年は10月8日に開催。美しいピアノ・リコーダーの調べと共に童謡や昭和歌謡曲も演奏され、馴染みのある曲に患者様・ご家族様もついつい手拍子が出ました。



今年もピンクリボン街頭活動をしました！

10月4日、及川病院スタッフに患者様も応援に駆け付けてくださり、天神ソラリアステージ前と大丸前でピンクリボン街頭活動を行いました。この活動は、JMS（ジャパンマンモサンデー「10月の第三日曜日」）の周知と乳がん検査の啓蒙運動のために毎年行っています。

お天気が懸念されましたが、スタッフの日頃の行いが良いせいかなんとか傘をささずに活動できました。

街頭活動で配布するA5のクリアファイルには毎年院内のデザイン募集で選ばれた最優秀賞を印刷します。

★今年は、このデザインでした★



配布活動は、受け取って頂くこと自体が大変なのですが、最近「毎年受けていますよ。」とか「予約しましたよ。」などと声をかけてくださる方や、励ましのお声など頂戴するようになり、一同励みになっています。

来年も活動しますので、是非お声をおかけ下さい。



留学にあたって

2016年秋より、米国のMD Anderson Cancer Centerに留学することとなりました。このような機会を与えて頂いた、リレー・フォー・ライフ・ジャパンの患者様、日本対がん協会の皆様、そして及川病院のスタッフの皆様に深くお礼申し上げます。

MD Anderson Cancer Centerはテキサス州ヒューストンにある、全米でも1,2を争う規模のがんセンターです。” Making Cancer History（がん撲滅の歴史は我々が作る）” を合言葉に最先端・高度ながん医療を提供しており、U.S. News & World Reportのベスト・ホスピタルがん部門においても、ほぼ毎年トップを獲得しています。様々な職種・科の医療スタッフが連携して集学的治療を行うチーム医療は特に評価されており、毎年多くの医療者が日本からも見学に訪れています。また、最新の基礎研究の結果を実際の治療へつなげるトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）も大変盛んで、過去5年にFDA（アメリカ食品医薬品局）で承認された新規がん治療薬の約3分の1がMD Anderson Cancer Centerが関わった臨床研究から生まれているそうです。今回、私はMD Anderson Cancer Centerの中のGenetics（遺伝学）部門にVisiting Assistant Professor（客員助教）として留学し、乳がんゲノムに関する研究を行う予定です。具体的には、一つの乳がん細胞よりDNAを抽出し、ゲノムの変化を解析する単一乳がん細胞ゲノムシーケンズを中心に研究を行います。これにより新たな乳がん発癌の原因や機序が明らかになるかもしれません。そして、その研究結果が新たな乳がん治療法や治療薬の開発に繋がることを期待しています。もちろん、基礎研究だけではなく、MD Andersonの優れた医療システムやがん患者さんのサポートシステムについても学んで来ようと考えています。

不在中は多くの患者様にご迷惑をおかけしますが、必ず皆様のお役にたてるようなものを持って帰りますので、どうぞご期待ください。

乳腺外科副部長 及川将弘

癌は体細胞ゲノム（全遺伝情報）の塩基配列に変化（変異）が起こることによると考えられ、“ゲノムの病気”と言われています。同じ乳癌でもDNAシーケンス（塩基配列）の変異が起きている箇所が個人により異なる。このことがそれぞれの乳癌の性格が異なり、治療効果も異なる原因であると考えられます。

最近、遺伝子の塩基配列を決定する次世代シーケンシング（塩基配列解読）の技術が急速に発展しています。この方法は、乳癌のDNAを抽出し、全ゲノムシーケンス（約30億の塩基から構成されています）をスーパーコンピューターを使って解読し、乳癌ゲノム（遺伝子情報）配列の変異を同定します。すなわち、癌細胞と正常細胞のゲノム配列のどこが違うかを決定する。これにより、癌の悪性度、予後、治療効果などの指標となる変異が明らかになる。これらの変異した遺伝子（群）をターゲットした分子標的薬が開発されています。このように乳癌の分子生物学的性格に導かれた、最適なピンポイント治療、すなわち、高精度医療（precision medicine）が提唱されています。このような治療により、奏効率が向上し、正常組織には障害を与えないため副作用が少なくなると考えられます。

さらに、たとえばホルモン療法に耐性（無効）となった乳癌と耐性となる前、または正常組織のDNAシーケンスを比べて、耐性乳癌に生じた変異遺伝子（群）がわかると、その変異分子をターゲットとした分子標的治療を行うことにより、より正確な、有効な治療が行えます。実際に、あるアロマターゼ阻害剤に耐性となった再発乳癌患者にmTORという増殖経路を阻害するエベロリムスという分子標的薬を他のアロマターゼ阻害剤と併用することにより、抗腫瘍効果が向上しました。奏効例に次世代シーケンシングを応用すると、特定の分子変異がmTOR経路に集中していました。すなわち、mTOR経路を阻害する治療効果を説明します。

これまで述べてきましたように、個々の乳癌を再分類し、高精度医療が可能となるために、IHC法、遺伝子発現プロファイル、次世代シーケンシングが進展し、一部は既に応用され、近い将来に実際の診療に広く適用されると考えられます。

このような分子標的治療は再発乳癌の項目で後に詳しく述べます。